

地域認識の把握手法に関する研究レビュー

西村 奏絵¹・佐々木 葉²

¹非会員 早稲田大学大学院 創造理工学研究科建設工学専攻

(〒169-8555 東京都新宿区大久保三丁目4-1 51号館16階02教室)

E-mail:kqhqe_wss@ruri.waseda.jp

²正会員 早稲田大学教授 創造理工学部社会環境工学科

(〒169-8555 東京都新宿区大久保三丁目4-1 51号館16階02教室)

E-mail:yoh@waseda.jp

地域の景観計画を検討する際にはその地域の景観特性把握が不可欠である。その際、物理的要素だけでなく人々の認識の把握も必要である。そのための手法を既存研究からレビューする。対象論文は1985年から2014年までの30年間に発表された土木学会、日本都市計画学会、日本造園学会、日本建築学会の論文集とする。対象論文のある面的広がりをもつ地域に対する個人の認識と集団表象としての認識に大別し、代表的な研究論文に用いられた方法論を整理した。

Key Words : regional recognition, regional image, research review, methods

1. はじめに

(1) 研究の背景

地域の景観計画策定やまちづくりにおいて、目に見える景観構成要素の物理的特色のみでなく、人々の地域に対する認識に注目することが求められている。

地域認識を把握する手法は、中村¹⁾らによる研究により環境イメージ研究の分類として概念整理(表-1)がなされ、それ以後に新しい手法が導入されているが、基本的な手法は継続的に用いられている。また分析対象とする主体や媒体は、個人、集団、描写されたテキスト等の集団表象まで多様である。佐々木²⁾は、地域環境景観を捉えようとした研究のレビューを、環境の状態にアプローチしたものから、景観を体験する主体側にフォーカスするものという分類軸によって4つに大別している。以上のように地域の景観を把握しようとする研究は多岐に渡るが、本稿では地域を認識する主体に着目し、主体(人々)の対象(地域)に対する認識を把握するための研究手法を整理する。なお、認識に関する研究には認知構造を明らかにすることを目的として対象の地域性を含まないものもあるが、本稿では、具体的な対象地域の認識を扱う研究に限定する。これによって、景観計画の議論などで必要とされる地域認識の把握方法の検討の際に、その目的に応じた研究調査手法を選定するための資料となることを期待する。

表-1 環境イメージ研究の分類¹⁾

	空間的位置情報を含む	空間的位置情報を含まない
再生法	イメージマップ法	自由連想法
再認法	地点識別法	写真分類法 類似性判断法 Semantic Differential法

(2) 研究の目的

本稿では、1985年から2014年までの30年間に発表された査読付き論文を対象として、実在する地域を対象とした地域認識の把握に関する研究レビューを行い、把握しようとする内容と手法の観点から既存研究を整理することを目的とする。

2. 研究手順

(1) 対象研究の選定

本稿で対象とする研究は、査読付き論文として、1985年～2014年において土木学会、日本都市計画学会、日本造園学会、日本建築学会における論文集に掲載されているものを対象に目次閲覧および本文を参照し抽出した。レビュー論文の抽出方法は、柴田ら³⁾のようにタイトルのキーワード検索により論文を抽出するのが一般的であるが、タイトルだけでは抽出できない論文もあるため、本稿では目次閲覧並びに本文参照という方

法を用いた。その結果、計119編の論文を抽出した。そのリストを巻末の表に示す。

また、各学会における論文集名と対応年を表-2に示す。

表-2 対象論文集

学会名	論文集名
土木学会	日本土木史研究発表会論文集 (1985～1989)
	土木史研究 (1990～2002)
	土木史研究論文集 (2004～2008)
	土木計画学研究・論文集 (1984～2008)
	土木学会論文集D (2006～2010)
	土木学会論文集D1, D2, D3 (2011～2014)
景観・デザイン論文集 (2006～2010)	
日本都市計画学会	都市計画論文集 (1985～2014)
日本造園学会	造園雑誌 (1985～1993)
	ランドスケープ研究 (1994～2014)
日本建築学会	日本建築学会計画系論文報告集 (1985～1993)
	日本建築学会計画系論文集 (1994～2014)

3. 研究論文の動向把握

(1) 調査対象論文

抽出した論文数の推移を図2に示す。図1より、人々の認識把握により地域の特性を記述した研究は主に都市計画学会と造園学会で多く発表がなされている。1990年以前から人々の認識を考慮した研究は行われており、現在も地域の特性を記述する方法として人々の認識把握を行っていることがわかる。

(2) 認識の主体と内容、手法に関する分類

a) 主体の整理

だれによって認識されたものであるのかという意味での認識の主体は、個別的主体、属性的主体、表象的主体の3つに大別できる。具体的な対象地域に対する認識を把握する研究には、複数の被験者が存在する。その中でも被験者の属性に着目し、認識を把握しているものを属性的主体とし、被験者の属性が影響していないと考えられるものを個別的主体とする。直井ら⁴⁾は、住

民と訪問客という属性に着目し、認識を把握している。一方で、人々の認識が一度何らかの形式でまとめられた表現媒体からの認識を把握しようとするものを表象的主体とする。押田⁵⁾は、歴史的人物の日記を用いることでその時代における認識を表象的なものから把握している。

b) 認識の内容の整理

地域に対する認識は、領域としての認識、風景としての認識、地域資源としての認識、印象・イメージとしての認識そして手法としての認識として5つに大別することができる。

c) 手法の整理

地域認識を把握するための調査手法は、まず「媒体」によって大別し、さらに地域認識の一次データの「抽出手法」に注目して細分類を整理する。

・「媒体」による分類

地域認識を把握するための「媒体」は、研究者が主体に対して何らかの調査・実験を行う場合 (a～c.) と、現前する主体ではなく資料を媒体とする場合 (d.) がある (表-3)。

a. アンケートは、自宅で行うもの、街頭で行うもの、対面式で行うもの、いずれにおいても主体に記述してもらうことで認識を把握するものとする。b. インタビューは、主体の発話によって認識を把握するものとする。c. 現場実験は、写真投影法のように実験者がある指示をした上で被験者が対象の現場で写真を撮ったり、話し合ったりと何らかの活動を被験者に行ってもらうことで認識を把握するものである。一方d. 文献は、紀行文や文学作品など、資料による調査により認識を把握するものとし、資料の種類を表4に示す。

表-3 手法における上流部分の種別

記号	大分類	媒体
a	アンケート	記述
b	インタビュー	発話
c	現場実験	活動
d	文献	資料

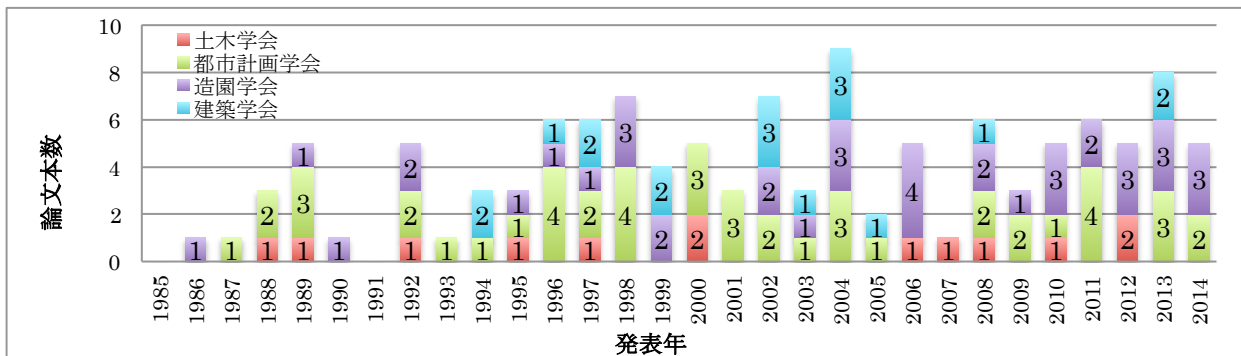


図-1 対象論文数の推移

表-5 抽出手法の種別

記号	手法	概要	主たる媒体
1	半構造化質問	質問に対し自由に回答する方法	記述・発話
2	構造化質問	あらかじめ用意された設問に対して選択的に回答する手法	記述・発話
3	写真投影法	指示された内容に対応する風景写真を撮影する手法	発話
4	地点識別法	ある場所の写真を提示され、その場所に該当する箇所を地図上で示す手法	発話
5	ワークショップ	ワークショップに参加し、与えられたテーマに対してグループ内でディスカッションを行う手法	活動
6	追跡調査	実験者が被験者の後方から、ビデオ撮影またはメモを取る手法	活動
7	スケッチ法	質問に対する回答をスケッチで描く手法	記述
8	圏域図示法	指示された特定の範囲を地図上に示す手法	記述
9	イメージマップ法	質問に対して該当する地図を描く手法	記述
10	連想法	質問に対して連想したことを発話する方法	発話

表-6 主体と認識内容に対する把握手法の種別

	個別的 (54)	属性的 (51)	表象的 (16)
領域 (10)	8 圏域図示法 (3) 1 半構造化質問 (1) 9 イメージマップ法 (1)	9 イメージマップ法 (3) 2 構造化質問 (1) 8 圏域図示法 (1)	
風景 (43)	2 構造化質問 (9) 3 写真投影法 (9) 1 半構造化質問 (5)	3 写真投影法 (7) 2 構造化質問 (3) 7 スケッチ法 (3) 1 半構造化質問 (3) 4 地点識別法 (1)	③ 文学作品 (2) ① 観光雑誌 (1) ⑤ 絵図 (1)
地域資源 (38)	2 構造化質問 (5) 1 半構造化質問 (3) 7 スケッチ法 (2) 5 ワークショップ (1) 9 イメージマップ法 (1)	1 半構造化質問 (7) 2 構造化質問 (5) 3 写真投影法 (2) 5 ワークショップ	③ 文学作品 (4) ① 観光雑誌 (2) ⑤ 絵図 (2) ⑥ 校歌 (2) ④ 文集 (1)
印象 イメージ (21)	2 構造化質問 (5) 1 半構造化質問 (3) 3 写真投影法 (1)	2 構造化質問 (8) 9 イメージマップ法 (1) ④ 文集 (1)	① 観光雑誌 (1)
手法 (9)	5 ワークショップ (2) 10 連想法 (1) ② ツイート (1) ③ 文学作品 (1)	6 追跡調査 (2) 2 構造化質問 (1) 7 スケッチ法 (1)	

・「抽出手法」による分類
抽出する手法は10個に分類された。それぞれの手法の概要と主たる媒体を表-5に示す。

計した。その結果、括弧内の総数は121となった。また、主体と内容に対応する論文の総数は、対応箇所の右下に鉤括弧内で示す。

表-4 文献の種類

記号	文献の種類	記号	文献の種類
①	旅行雑誌	④	文集
②	ツイート	⑤	絵図
③	文学作品	⑥	校歌

d) 分類結果

以上の認識の主体と内容、手法の3点に着目して対象論文を位置づけた結果、表-6のようにまとめることができた。括弧内は該当する論文数を示している。複数の手法を用いている論文については主たる手法を扱う手法とし、複数の手法が並列して用いられる場合のみ、1編あたりの手法数を複数として統

(3) 認識の主体と内容、手法に関する考察

表-6より、個別的主体における風景としての認識、属性的主体における風景、並びに地域資源としての認識を把握する研究が多くなされている。

個別的主体における風景としての認識を把握する手法は、選択形式の質問による手法が多い。これは、ある特定の地域の風景写真を見せて、その風景に対する選択形式の質問に答えることで認識を把握しているものが多い。また、写真投影法による手法も多く見られ、被験者によって撮影された写真から風景としての認識を把握している。属性的主体における風

景としての認識を把握する手法においても、写真投影法が多く用いられていることから、写真投影法は、風景としての認識を把握する際の一般的な手法と言える。また、属性的主体における地域資源としての認識を把握するためには、自由形式、選択形式による記述内容から把握する傾向がある。

また、領域としての認識を把握する手法は、イメージマップ法と圏域図示法が用いられることが多く他の認識内容の把握には、主として用いられないことから、これらの手法は領域としての認識を把握するために確立した手法といえる。

表象的主体としての認識を把握する手法は、全て文献を用いた手法である。さらに、そこから把握される認識は、風景としての認識と地域資源としての認識がほとんどである。

4. まとめ

本稿では、実在する地域を対象とした地域認識の把握に関する研究レビューを行い、認識の主体と内容、手法に関する分類を行った。手法は4つの「媒体」によって大別でき、さらに地域認識の一次データに着目して10個の「抽出手法」に分類できた。

今回は、主体に着目した地域認識の把握のための手法を整理したが、地域認識の把握手法をより明確化するために、対象である地域についてもフォーカスする必要がある。

参考文献

- 1) 中村良夫, 北村眞一, 矢田努: 地点識別に基づく都市景観イメージの解析方法に関する研究, 土木学会論文報告集, 第 303 号, 1980
- 2) 佐々木葉: 地域景観の議論のためのメモランダム, 景観・デザイン研究講演集, No.7, 2011
- 3) 柴田久, 石橋知也: 目的別研究系譜図にみる景観論の動向について-98 年から 07 年を対象として-, 景観・デザイン研究講演集 No.4, 2008
- 4) 直井岳人, 十代田朗, 飯島祥二: 観光地としての歴史的町並みにおける地元の生活の様相-観光客のまなざしの対象と、それに対する住民の評価-, 都市計画論文集, Vol. 48, No.1, 2013
- 5) 押田佳子: 徳川光圀『鎌倉日記』にみる近世鎌倉の観光および観光資源の発掘に関する研究, ランドスケープ研究, Vol. 75, No. 5, 2012

A review to verify the recognition of a region through existing research

Kanae NISHIMURA, Yoh SASAKI

It is necessary to verify the character of regional landscape when one examines the landscape planning of a region. Not only the physical elements, people's recognition should also be considered as one of the indicators. This paper reviews the methods based on existing researches. The journals that are published by Japan Society of Civil Engineers, The City Planning Institute of Japan, Japanese Institute of Landscape Architecture, Architectural Institute of Japan from 1985 to 2014 are reviewed. Individual recognition and group representative recognition of the region are generally divided through the study of related research. Finally the methodologies applied in significant research papers are clarified.

付録・文献リスト

No.	掲載年	タイトル	著者	掲載誌	主体	内容	手法
1	2014	旅行ガイドブックとロコミの言語解析による訪日外国人の観光地イメージに関する研究	大久保立樹・室町泰徳	都市計画	C	iii	d-①
2	2014	「つぶやき」から見る都市についての一考察—都市名に着目して—	谷口守・星野奈月・富永透見	都市計画	A	v	d-②
3	2014	札幌市の都市イメージにおけるみどりの位置づけとその理由	上田裕文・クリストフ・フルブレヒト	ランスケ	A	iii	a-7
4	2014	埼玉県川越市の景観に対し地元大学生が抱いた印象の集合知としてのSALoTマップ	大森宏・羽生和紀・山下雅子	ランスケ	B	iii	c-3
5	2014	バンラデシュ・チュタゴンの都市部に住む若年層の景観認識調査について	福井亘	ランスケ	A	iv	a-2
6	2013	観光地としての歴史的町並みにおける地元の生活の様相—訪問客のまなざしの対象と、それに対する住民の評価—	直井岳人・十代田朗・飯島祥二	都市計画	B	iii	a-1
7	2013	堺市大美野住宅地において継承されてきた景観資源の風景的価値に関する研究	加我宏之・田川圭佑・武田重昭・増田昇	都市計画	B	iii	c-3
8	2013	旅行雑誌にみる町並みの観光地イメージの変遷と地域特性との関連に関する研究	倉澤知久・十代田朗・津々見崇	都市計画	C	iv	d-①
9	2013	個人意識としての気に入っている風景と集団意識としての地域らしい風景の関係	四戸秀和・上田裕文	ランスケ	B	ii	a-7
10	2013	市街地および近郊域における児童の理想とする自然環境のあり方に関する考察	椎野亜紀夫	ランスケ	B	ii	a-7
11	2013	群馬県中学校の校歌を事例としたテキスト分析により導かれる山岳の景観言語の検討	塚田伸也・森田哲夫・橋本隆・湯沢昭	ランスケ	C	iii	d-⑥
12	2013	インタビュー調査にもとづく近隣環境における高齢者の愛着場面に関する研究	加藤悠介	建築計画	B	iii	b-1
13	2013	地方都市の河川緑地における風景評価に関する一考察—前橋市の広瀬川河畔緑地を事例として—	塚田伸也・森田哲夫・橋本隆・湯沢昭	建築計画	B	iv	a-2
14	2012	自由記述データを用いたテキストマイニングによる都市のイメージ分析	森田哲夫・入澤寛・長塩彩夏・野村和広 塚田伸也・大塚裕子・杉田浩	土木D3	B	iii	a-1
15	2012	観光地における多様な主体の地域愛着規定因に関する研究—ニセコ・倶知安地域を事例として—	谷口綾子・今井唯・原文宏・石田東生	土木D3	B	iv	a-2
16	2012	徳川光圀『鎌倉日記』にみる近世鎌倉の観光および観光資源の発掘に関する研究	押田佳子	ランスケ	C	iii	d-③
17	2012	観光のまなざしによりつくられる北海道の風景イメージの研究	上田裕文・吉田恵介	ランスケ	B	ii	a-7
18	2012	淡路市岩屋地区における漁業集落の特徴的な景観とその特性について	林ひろみ・林まゆみ	ランスケ	A	ii	a-2 b-1
19	2011	都市施設が居住者のまへの愛着に及ぼす影響に関する研究	鈴木崇之・石川徹・貞広幸雄・浅見泰司	都市計画	B	iii	a-2
20	2011	現地と地図の対応能力に見る都市における高齢者の生活行動	引田有人・石川徹	都市計画	B	ii	c-4
21	2011	大字単位にみる中山間地域の地域構造とまちづくり計画策定への取り組みについて—いわき市三和町を対象として—	斎藤充弘	都市計画	B	iii	c-5
22	2011	都市更新期における下町への転入者の生活順応プロセス—東京都台東区根岸4丁目における転入者を対象として—	葛野亮・後藤春彦・佐藤宏亮	都市計画	B	v	a-2
23	2011	斑鳩らしい景観の継承性に与える景観構成要素の変化特性に関する研究	下村泰彦・山崎寛朗・加我宏之・増田昇	ランスケ	A	ii	a-2
24	2011	長野市松代町におけるまち歩きイベントと地域評価との関連性	兼井聖太・佐々木邦博・上原三和	ランスケ	A	iv	a-2
25	2010	近世の紀行文にみる嵯峨野における風景の重層性に関する研究	山口敬太・出村嘉史・川崎雅史・樋口忠彦	土木D	C	iii	d-③
26	2010	経路探索行動からみる都市空間把握の文化的差異—地理情報媒体に着目した実証分析—	佐野由有・伊藤香織	都市計画	B	v	c-6
27	2010	十返舎一九「金草鞋」を通じてみた近世鎌倉観光における通過地点の景観構成とその鑑賞形態に関する研究	押田佳子・横内憲久・岡田智秀	ランスケ	C	iii	d-⑤
28	2010	行為と距離の観点からみた農村地域居住者が地域アイデンティティとして認識する景観の特性	渡部陽介・横張真	ランスケ	B	iii	b-1
29	2010	埼玉県八潮市における景観変遷と住民の景観認識に関する研究	森信秀一郎・荒井歩	ランスケ	A	ii	a-1
30	2009	風景イメージスケッチ法の構築に関する研究	上田裕文	都市計画	B	v	b-7
31	2009	ウォーキングにおいて重要視される風景とその役割に関する研究	西部絵理・真田純子	都市計画	A	ii	c-3
32	2009	大井川中流域の茶園卓越景観における日中の来訪者による景観認識比較	奥敬一・深町加津枝・三好岩生・堀内美緒	ランスケ	B	ii	c-3
33	2008	「地域風土」への移動途上接触が「地域愛着」に及ぼす影響に関する研究	鈴木春菜・藤井聡	土木D	A	iii	a-2
34	2008	子どもの視点に基づく通学路環境の評価に関する研究	藤本尚子・藤田素弘	都市計画	B	iii	a-1
35	2008	地域資源としての工場に対する住民意識構造に関する研究	森奥悠人・松村暢彦・鳴海 邦碩	都市計画	B	iii	a-2
36	2008	琵琶湖西岸の里山地域における地元住民と移入住民の景観認識の比較	松島洋介・奥敬一・深町加津枝・堀内美緒 森本幸裕	ランスケ	B	ii	c-3
37	2008	環境価値の類型と日常景観評価の関係に関する考察	剣持智美・斎藤馨	ランスケ	A	ii	b-1
38	2008	景観まちづくりにおける空間イメージ共有手法に関する研究	古賀元也・船心治・多田村克己・大貝彰 松尾学	建築計画	A	v	c-5
39	2007	水辺の景観認識の変遷に関する研究—岐阜県長良川を対象として—	田中尚人・二村春香・秋山孝正	景・デ	C	ii	d-①
40	2006	昭和初期の嵯峨における風景の価値評価に関する研究	山口敬太・水谷肇・出村嘉史・川崎雅史 樋口忠彦	景・デ	C	iii	d-③
41	2006	大都市圏周縁部における農地を中心に構成される景観の評価構造に関する研究	松本邦彦・澤木昌典・柴田祐	ランスケ	A	ii	a-2
42	2006	農村地域における景観形成に関わる住民の認識と行動の構造化	恵谷浩子・村松真・麻生恵	ランスケ	A	ii	a-2
43	2006	人々が地域の水辺に対して抱く愛着に関する研究	佐竹俊之・上南木昭春	ランスケ	B	iv	b-2
44	2006	日独の国有林地域、ラインハルトの森と旧沢内村における地域像と森林像	上田裕文	ランスケ	B	ii	b-1
45	2005	盛岡市中心市街地を流れる中津川の景観の特徴「中津川の好きな景観」をテーマに撮影された写真を通じて	菅原崇史・三宅諭	都市計画	A	ii	c-3
46	2005	沿岸農村地域における複合圏域の変化の要因とその内部構造について：地域住民における環境認知にもとづく計画圏域の設定 その2	根来宏典・蝶名林秀明・大内宏友	建築計画	A	iii	a-1
47	2004	地域イメージの表現手法に関する研究—司馬遼太郎『街道をゆく』における文章構成の分析から—	山崎隆之・十代田朗	都市計画	C	iii	d-③
48	2004	市町村合併による市町村名称の変化が住民の地域帰属意識に与える影響—兵庫県篠山市を対象として—	遠藤亮・中井検裕・中西正彦	都市計画	B	i	a-2
49	2004	嵐山の森林景観における地域らしさの評価構造	奥敬一・深町加津枝	ランスケ	A	ii	a-2
50	2004	泉北丘陵部部の農村地域における地形特性から捉えた居住者が住む風景魅力の解明	青野幸子・加我宏之・下村泰彦・増田昇	ランスケ	A	ii	c-3

付録・文献リスト

No.	掲載年	タイトル	著者	掲載誌	主体	内容	手法
51	2004	大阪市における市民に好まれる風景構造に関する研究	王蕊・下村泰彦・加我宏之・増田昇	ランスケ	A	ii	a-1
52	2004	カード提示イメージ想起法の提案と徒歩観光ルートの分析：イメージにおける歩行ルートのシークエンスに関する研究(その1)	山口満・島村真次郎	建築計画	A	iii	b-2
53	2004	空間理解とイメージ共有のためのワークショップ支援システム(その1)	大畑浩介・有馬隆文・滝口浩義・坂井猛 萩島哲	建築計画	A	iii	c-5
54	2004	司馬遼太郎『街道をゆく』にみる地域イメージの対象と記述手法に関する研究：地域イメージの解釈と表現の手法に関する研究(その1)	大内宏友	建築計画	C	iii	d-③
55	2003	イメージスケッチ法を用いた観光地における印象的な景観場の特性分析	姫野由香・佐藤誠治・小林祐司・金	建築計画	A	iii	b-7
56	2003	大阪市における市民に好まれる風景の空間構成および移ろい性に関する研究	下村泰彦・有本幸代・王蕊・増田昇	ランスケ	A	iii	a-1
57	2003	沿岸漁村地域における複合圏域の変化の要因とその内部構造について：地域住民における環境認知にもとづく計画圏域の設定 その1	根来宏典・大内宏友	建築計画	A	iii	a-1
58	2002	大阪梅田地区における外国人と日本人の経路探索事例の比較分析	秦丹尼・舟橋國男・木多道宏・李斌	都市計画	B	v	c-6
59	2002	写真投影調査による観光客と住民の景観認識の差異—白川村菰町を事例として—	黒田乃生・羽生冬佳・下村彰男	都市計画	B	ii	c-3
60	2002	明治中期に刊行された外国人向け英文観光ガイドブックの記述内容の特徴	里居真一・羽生冬佳・十代田朗・津々見崇	ランスケ	C	iii	d-①
61	2002	江戸の伝統的名所の特性と明治以降戦前までの名所としての価値の変遷に関する研究	羽生冬佳・岡野祥一	ランスケ	C	iii	d-⑤
62	2002	多変量解析を用いたキャプション評価法データの分析：都市景観の認知と評価に関する研究 その2	小島隆矢・古賀誉章 宗方淳・平手小太郎	建築計画	A	iv	c-3
63	2002	農村地域における地域資源活用からみた住民参画の様態に関する研究	高藤亮司・藍澤宏	建築計画	B	iii	a-2
64	2002	長野県飯山市を事例とした寺町のイメージに関する手法	山口満・山崎靖明	建築計画	A	iv	b-2
65	2001	碓都・栃木葛生町におけるセメント工業イメージの変遷に関する研究	岡田昌彰	都市計画	B	iv	d-④
66	2001	歴史的町並みを持つ地方都市に対する出身者の景観認識に関する研究—兵庫県出石町を事例として—	網原一寛・鳴海邦碩・澤木昌典	都市計画	B	iv	a-2
67	2001	住工混在地域における居住者の心象風景の解明	山口美緒・横張真・渡辺貴史	都市計画	B	ii	b-1
68	2000	イメージの集団的共有化によるまちづくり支援手法確立のための基礎的研究—群馬県新田町の都市計画マスタープラン作成プロセスを事例として—	伊藤将司・柴田貴徳・青島縮次郎	土木計画	A	v	b-10
69	2000	景観認識における意識の連関と生成に関する基礎的研究	萩下敬雄・山田圭二郎・中村良夫	土木計画	A	ii	c-3
70	2000	秩父武甲山の景観変容とイメージ変遷に関する研究	岡田昌彰	都市計画	B	iv	d-④
71	2000	阪神・淡路大震災を契機として変化した風景に対する生活者の嗜好性に関する研究	武田重昭・加我宏之・下村泰彦・増田昇	都市計画	A	ii	c-3
72	2000	「住みやすいまち」と「訪れたいまち」としての魅力から捉えた生活者と来訪者の景観評価に関する一致点と相違点—滋賀県長浜市を事例として—	秋浦理子・加我宏之・増田 昇・下村泰彦	都市計画	B	ii	a-2 c-3
73	1999	都市域の河川における水辺イメージに関する一考察	中村彰吾・小林昌毅・高橋邦夫・荻原良巳	ランスケ	A	ii	c-3
74	1999	来街者行動圏域と空間の選好から見た街の魅力の構造に関する研究	宇佐美卓・杉田早苗・土肥真人	ランスケ	B	i	a-8
75	1999	河川空間における児童の活動経験と地域空間に対するイメージ特性に関する研究：三重県宮川流域を対象とした児童の河川空間に対する空間認識に関する研究 その2	石井史彦・畔柳昭雄	建築計画	B	iv	a-9
76	1999	キャプション評価法による市民参加型景観調査：都市景観の認知と評価の構造に関する研究 その1	古賀誉章・高明彦・宗方淳・小島隆矢 平手小太郎・安岡正人	建築計画	A	ii	c-3
77	1998	京都観光エリアイメージにおける構成地物と評価因子に関する基礎分析	棚橋美佐緒・西井和夫・川崎雅史・酒井弘	都市計画	A	iv	a-1
78	1998	漁村のオープンスペースにおける空間改変と地区住民の認識に関する研究—鳥根県八東郡美保関漁港の後背集落を事例として—	土井良浩・土肥真人	都市計画	B	iv	b-2
79	1998	地域の使い方と地域認識にもとづく「まち」のまとまりに関する研究	小浦久子・生島一明	都市計画	A	i	a-8
80	1998	歳時記的要素に配慮した都市の空間構成に関する研究—「ひたち都市環境写真コンテスト」応募作品「江戸名所図会」の分析—	篠崎伸・志摩邦雄・小柳武和	都市計画	C	ii	d-⑤
81	1998	江戸時代の朝鮮通信使による風景認識と体験記述の特徴に関する研究	西嶋啓一郎・仲間浩一	ランスケ	C	ii	d-③
82	1998	居住者の日常風景に対する嗜好性と地区の歴史的蓄積との関わりについて	久浦理子・山本聡・下村泰彦・増田昇	ランスケ	A	ii	c-3
83	1998	地元住民による水田景観の認知構造	田野倉直子・横張真・山本勝利・加藤好武	ランスケ	A	ii	a-2
84	1997	都市のイメージ構造と地域特性の関係に関する研究	斎藤和夫・石崎裕幸・田村亨・樹谷有三	土木計画	B	iii	a-2
85	1997	歴史的町並み地区における観光活動設計に関する研究—福岡県吉井町を事例として—	大森洋子・西山徳明	都市計画	A	iii	a-2
86	1997	住民・転出者・来訪者からみた岩手県中山間地域における町のイメージ構造—岩手県軽米町を対象として—	安藤昭・佐々木真弘・赤谷隆一 佐々木栄洋	都市計画	B	iv	b-2
87	1997	写真コンクールにみる農村景観の季節性認識	奥敬一・深町加津・下村彰男	ランスケ	B	ii	a-2
88	1997	「イメージマップ」による個人の環境イメージと集落空間特性：都市・農村のマージナルエリアにおける都市化の構造と環境計画第3報	加藤仁美	建築計画	A	iii	a-9
89	1997	地域住民の環境認知における集落の類型に関する実証的研究：環境認知の領域を主体とした実態圏域 その2	大内宏友・坂本龍宣・砂田哲正・高橋康征	建築計画	A	i	a-1
90	1996	都市空間における記憶的イメージの抽出と空間変化指標との関係	田中一成	都市計画	A	ii	a-2
91	1996	地域イメージに関する認知構造の研究	加藤哲男・上川洋司・本多義明	都市計画	B	iv	a-2
92	1996	写真投影法を用いた景観評価の基礎的構造に関する研究	上山輝・土肥博至	都市計画	A	ii	c-3
93	1996	地域景観イメージの把握とその変容過程に関する考察	田中奈美・土肥博至	都市計画	A	iv	a-2
94	1996	地域住民の“気”が入りの場所”形成に係る必要条件に関する研究	包清博之・杉本正美	ランスケ	A	i	a-8
95	1996	「空間意識図」における住民の共通な環境イメージ：都市・農村のマージナルエリアにおける都市化の構造と環境計画第2報	加藤仁美	建築計画	A	ii	a-2
96	1995	写真投影法による河川景観の構造に関する研究	山下三平	土木計画	B	ii	c-3
97	1995	景観単位による地域景観の記述方法	土肥博至・田中美奈・澤田幸枝・鈴木理恵	都市計画	A	iv	b-2
98	1995	児童の居住環境と地域環境評価との関連	？京祿	ランスケ	B	ii	a-2
99	1994	都市の構成要素の認知とイメージ関連分析—兵庫県姫路市におけるケーススタディー	出田肇・石見利勝	都市計画	A	iii	a-2
100	1994	地域住民における環境認知の構成要素と広がりに関する実証的研究：環境認知の領域を主体とした実態圏域 その2	大内宏友・砂田哲正	建築計画	B	iii	a-1

付録・文献リスト

No.	掲載年	タイトル	著者	掲載誌	主体	内容	手法
101	1994	京都の都市イメージにおける伝統的要素の想起要因	藤原篤・福永太郎・川崎清	建築計画	B	iii	a-1
102	1993	文学作品中の空間描写にみる都市景観に関する研究	池田朋子・大貝彰	都市計画	C	iii	d-④
103	1992	子供の目に映った河川環境とその評価に関する研究	山下三平・坂本純二・平野宗夫	土木計画	B	ii	c-3
104	1992	認知地図を用いた都市構造に関する意識分析	長瀬恵一郎・松本昌二	都市計画	B	i	a-9
105	1992	子どもと地域空間の関わりを分析する手法としての写真投影法	久隆浩・鳴海邦碩	都市計画	B	ii	c-3
106	1992	岡山県森山地域における景観計画と地域住民の景観認識構造について	麻生恵・堀江篤郎	造園	A	iv	a-1
107	1992	児童の風景描写からみた農村景観への意識化に関する基礎的研究	木下勇・中村攻	造園	B	ii	a-1
108	1990	校歌に謳われた都市の景観構造に関する研究—伊勢平野の3都市を事例に—	北原理雄	都市計画	C	iii	d-⑥
109	1990	緑地保全のための風景評価の方法と、その計画化に関する研究	飯島忠昭・安陪麻子・葦茂寿太郎・趙賢一 姜榮?	造園	A	ii	a-1
110	1989	過疎問題と過疎地域の地域イメージに関する基礎的研究	折田仁典	土木計画	B	iv	a-2
111	1989	子供の生活空間の認識と認知対象について —イメージマップからみた農村部における子供の生活空間に関する研究 その1—	和田幸信	都市計画	B	i	a-9
112	1989	住民が認知する港湾の領域に関する研究—船橋市を事例として—	桜井慎一・横内憲久・鈴木洋・矢川隆史	都市計画	B	i	a-8
113	1989	まちづくりへの参加の新しい局面とその道具としての「ガリバー地図」	中村昌広	都市計画	A	v	c-5
114	1989	武蔵野のイメージとその変化要因についての考察	山根ますみ・篠原修・堀繁	造園	A	v	d-③
115	1988	都市河川空間の評価構造に関する研究	小池俊雄・玉井信行・高橋裕・泉典洋 岡村次郎	土木計画	A	iv	b-1
116	1988	イメージマップからみた子供の生活空間とその認識に関する研究	和田幸信	都市計画	B	i	a-9
117	1988	都市の心象風景に関する研究—長野市の心象風景のイメージ構造について—	岩永尊敬	都市計画	A	ii	a-2
118	1987	住民意識を考慮した観光資源調査に関する研究	青田浩光・永井護	都市計画	A	iii	a-2
119	1986	日常生活行動領域における緑のイメージ構造に関する研究	増田昇・安大就・中瀬勲・下村泰彦	造園	A	i	a-9

論文集の凡例

	論文集名
土木D3	土木学会論文集D3
土木D	土木学会論文集D
土木計画	土木計画学研究・論文集
景・デザイン	景観・デザイン研究論文集
都市計画	都市計画論文集
ランスケ	ランドスケープ研究
造園	造園雑誌
建築計画	日本建築学会計画系論文集

手法の凡例

認識主体		手法	
	大分類	小分類	
a	個別的		
b	属性的		
c	表象的		
認識内容			
i	領域		
ii	風景		
iii	地域資源		
iv	印象・イメージ		
v	手法		
	a: アンケート	1: 半構造化質問 2: 構造化質問	6: スケッチ法 7: 圏域図示法
	b: インタビュー	3: 写真投影法 4: 地点識別法	8: イメージマップ法 9: 連想法
	c: 現場実験	5: ワークショップ	10: 追跡調査
	d: 文献調査	①旅行雑誌 ②ツイート ③文学作品	④文集 ⑤絵図 ⑥校歌